

生涯学習

No.502

かおり高い
文化のまち

発行 下諏訪町教育委員会
編集 生涯学習
編集委員会

〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
(下諏訪総合文化センター内)
☎ 0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
E-mail=syougai@town.
shimosuwa.lg.jp

生涯学習 2016.3 10

1年間の分館活動を振り返って

第一区

星ヶ塔遺跡探訪

分館長 中村 久

家庭教育講座及びふれあい親睦事業の一環として、国史跡に指定された「星ヶ塔黒曜石原産地遺跡」をテーマに取り組みました。

八月に宮坂清学芸員から、「星ヶ塔遺跡」について講演をしていただきました。遺跡発掘調査の興味深い話をお聞きし、和田峠周辺の黒曜石群について、学びました。

九月には、バスハイキングを兼ねて現地見学会を行いました。国有林内にある遺跡は普段公開されておりませんが、宮坂学芸員の計らいで、間近に遺跡を見ながら説明をお聞きし、改めて八月の講演会の内容を理解することができました。山奥に眠る遺跡と、辺り一面に輝く黒曜石片は神秘的で、五十人程の参加者は、縄文時代に思いを馳せました。



第二区

二区の宝物

副分館長 山田 昌宏

二区と分館では小中学生に参加を求め、リーダーの中学生がグループワークを行い自ら企画して、区内に住む、山形県の花笠おどりで有名な四方山会よもやまかい出身の小口さんを先生に練習が始まりました。お舟祭り宵祭り・二区区民祭りで、皆様にご披露させていただきました。また小学生全員がポスターの作製・広報車のアナウンス・司会・屋台村等の中心となり活躍しました。区よりは屋台村の利益を、すべて子どもたちの活動費としていただきました。区よ区民祭りには、中学生の素晴らしいサポート役として高校生有志の参加があり、ここに小中高の縦の絆が生まれました。

敬老会では、中学生の地区会長林さんに分館の運営委員になっていただきました。分館の歴史の中で初めてのことで、小中学生のお祝いの言葉に始まり花笠踊りを披露させていただきました。お年寄りからは、アンコールが出され大変喜んでもらいました。

知恵の宝庫であるお年寄りと、区の宝である子どもとの感動の触れあいの一時でした。

来年もコミュニケーションが、下諏訪町において盛大に活動されることを祈念しております。



1年間の分館活動を振り返って

第三区

鎌倉街道・湖畔散策と 柿蔭山房・諏訪湖博物館 を訪ねて

分館長 諏訪 敏和

第三区分館では、毎年「史跡探訪」と称して地域の歴史と文化を訪ねています。七月五日には約三十五名の参加を得て、秋宮から「いいなり地蔵」を経て第十区の皆さんが整備した鎌倉街道を散策、殿村遺跡・島木赤彦の旧宅(柿蔭山房)を見学、さらに湖畔を歩いて諏訪湖博物館・ハーモ美術館を見学し、それぞれの場所で学芸員や係の方から説明をしていただきながら、地域の歴史や風俗・文化あるいは美術にふれることができました。

当日は若干肌寒さを感じる天候ではありませんでしたが、参加された皆さんは約六キロメートルの道程を、会話を弾ませ、蘊蓄を語りながら楽しんでいただけただけの様子でした。



第四区 文化祭

分館長 小林 猛

十一月一日快晴、区長のテープカットにより文化祭が開催されました。展示のメインは、小学校のポスターコンクールです。

多くの作品が集まり、区長賞・会館長賞など十二点を選出して表彰しました。

接待として来場者におしるこ・焼きソバ・フランクフルト・綿アメ等を振る舞いました。今年度は、中学生男子五名に焼きソバ等を担当依頼し、売り切れまで熱心に手伝わってもらい活気あるイベントになりました。

恒例の野菜などのバザーも同時に行い、午後にはほとんどなくなるという盛況ぶりでした。毎年このバザーを楽しみにしている人も多いようです。

文化祭を通して、区民の皆様の世界を超えた行事となりました。



第五区 酒蔵見学

分館長 小松 裕之

十一月二十八日(土)に「酒蔵見学 日本酒を知ろう!」と題し、日本酒の知識を深めながら親睦をはかる会を開催しました。日本酒が好きな方のみならず女性でも楽しめる日本酒をという思いで企画し、女性を含む十六名の区民の皆様に参加いただきました。

酒造所で杜氏をされている区民の方のご協力をいただき酒蔵を見学。今まさに発酵している醪を見学することもでき、とても貴重な体験となりました。また同氏による日本酒の製造工程についての講義では、参加者の皆さんが興味深く聞き入り、また質問をする姿も見受けられました。

見学の後は、全国きき酒選手権大会公式ルールに基づいた「きき酒大会」を開催し、参加者全員で楽しみ盛り上がりしました。また親睦会では、この季節でしか味わえない蔵出しの原酒やにがり酒を楽しみながら会話も弾み、年齢を超えた良い親睦の機会となりました。



1年間の分館活動を振り返って

第六区 楽しい陶芸教室

分館長 中畑 和朗

残暑が続いた九月六日、町屋敷在住の黒澤明先生を講師に迎え、陶芸教室を開催しました。

陶芸で使う粘土は、黒澤先生が地元の六区で採取した土を調合したもので、一人一キらずつ配って作っていただきました。粘土を捏ねる作業も初心者には難しく、先生や毎回参加されている方々に、御指導いただきました。和気あいあいの雰囲気の中、思い思いの作品ができました。お皿・マグカップ・置物等、この世にふたつとないオリジナルティあふれる陶芸になりました。

参加者の作品は、後日黒澤先生に絵付け本焼きをしていただきました。みなさんの見事な作品は、区民文化祭に出展されました。

今後とも六区の大切な行事として、継続して行ってほしいと願っております。



第七区 ニジマスつかみ取り体験

分館長 山田 哲男

六月二十一日午前八時、コンクリートで固められた川底は大小一〇〇個余りの自然石で敷き詰められ、福澤川は自然に返った。

一歳児から約一七〇名のちびっ子が、一斉に飛び込みマスを追った。放した魚はなかなか捕まらない。真剣だった。捕った魚は中学生に手伝ってもらいさばき、大きな竹串に刺し炭焼き場に自分で運んだ。

川に入ってから、口に入るまでに二時間近くかかった。皆夢中でマスにかぶりつく。また手ではがし口に突っ込む。先ほどのざわめきが止まった。親は何一つ手を出さなかった。全員が食べ満足げだった。



〈この企画に携わった方々〉
東山田婦人部18名
マスプロジェクト有志14名
小中PTA保育園有志17名
スタッフ計66名
全参加者350名

第八区 区民運動会

分館長 小柄洞 剛

五月三十一日(日)、区民運動会が公民館グランドで開催されました。

天気にも恵まれ子どもたちからご年配の方まで、約二百人の区民の方が参加されました。区民の皆様が体を動かしながら親睦を図る目的で、何十年も前から毎年開催されています。

松澤区長の開催挨拶で競技がスタート。小学生の勝負にこだわった力走から、なかなか上手くスピードに乗れない一般男女の駆けっこ。パン食い競走や四地区対抗のムカデリレーなど十九の競技に歓声と笑顔が絶えず、皆さん大ハッスルでした。

今年から新競技「八区〇×クイズ」は、八区に関する問題が出て、〇か×を選択する競技で注目度も高く、時に真剣な眼差しで盛り上がりました。世代間の交流が図られ、親睦が深められた行事となりました。

来年も続けていきたいと思えました。



1年間の分館活動を振り返って

第九区 室内ゲーム大会

分館長 埴原 千善

十一月二十九日（日）、降っても照ってもできないように下諏訪中学校の講堂を借用し、日ごろの運動不足解消と区民の親睦を図る意味で室内ゲーム大会を開催しました。

初めての試みで何名位の参加があるかもわからない中、準備を進め開会したところ、小中学生が約三十名、大人が約三十名と多くの方に参加していただきました。AとBの二チーム編成をして老若男女で個人賞とチーム賞を目指して、和気あいあいとゲームを行うことができました。

ゲーム内容は誰もが簡単にでき、参加できるものと、中学生を主体に考えてもらいました。また、当日の進行も中学生にお願いし無事大役を務めてもらい出席者全員に楽しんでいただけたと思います。

身体を動かす機会の少ない昨今ですが、このような行事が恒例となつて続くことを願っています。



第十区 夏の鷲ヶ峰登山

分館長 原 勝

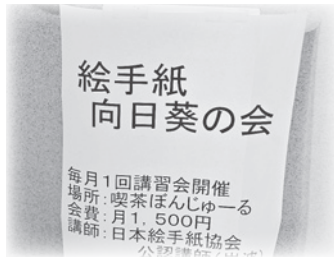
今年度は、通年行われている事業のほか、家庭教育講座は健康と自然にかかわる事業を計画し、七月には「夏の鷲ヶ峰登山」を行いました。

鷲ヶ峰登山は、健康づくりと自然を満喫するため四歳から七十三歳までの区民三十人の参加で行われました。

約一時間の登りでは、ニッコウキスゲ、シシウド、トラノオが群生する中、お互いに声をかけ、思いやり、励ましあいながら頂上を目指しました。汗ばむ体には心地よい涼風が吹いていました。頂上からは、遠く富士山、南・中央・北アルプスを望み、八ヶ峰原湿原の先には、八ヶ岳が南北にどっしりと連なっており、素晴らしい景色を楽しみました。

鷲ヶ峰は、植物も豊富で、短時間に稜線に出られ、三六〇度展望の身近な気軽に登れる山だと思えます。健康寿命と言われる中、少しでも自分の足で歩き続けたいものです。





絵手紙向日葵の会 (絵手紙)



諏訪デジタルカメラの会 (写真)



山野草を見る会 (花写真)



下諏訪茶道連盟 (呈茶)



生活改善実行委員会 (衣装)



下諏訪いきいきシニアIT会 (パソコン作品)



走れ、カネイノチ！～杉山亮のびっくりものがたり

杉山 亮 (すぎやま あきら) 作 おかべ りか 絵 講談社

平成のホラ吹き男爵・杉山亮による、めちゃくちゃなお話。実は、私は塩尻の図書館で開かれた杉山亮の「ものがたりライブ」でこの本に収録されている「大工のケムさん」を聞いて、あまりのおもしろさに涙が出るほどで、これはなんとしても下諏訪の図書館でも話してもらわなくては・・・と思ったのです。

落ち着かない男の子も釘付けになるおもしろさです。

下諏訪町立図書館 井上 喜久美



子どものことを子どもにきく

～「うちの子」へのインタビュー・8年間の記録～

杉山亮・作 新潮社

著者が自分の子どもに毎年1回インタビュー。3歳から10歳までの8年間に成長する間に子どもが感じたことを素直につづった、しかしなぜか大爆笑の対談集。子どもとの会話は新鮮な驚きがいっぱい。ところが子どもがいつも面白いことを言うとは限らない。そんな中で書き留めるに値する言葉のやりとりとは…!? “インタビューの勘どころ”はおすすめ。

下諏訪町立図書館 宮坂 昭子



図書館からのお知らせ

3月6日、下諏訪おはなしのへや主催で、児童文学者の杉山亮さんが下諏訪の図書館で講演会を開きます。午前中は子ども中心に「ものがたりライブ」をしていただきます。午後は大人向け講演会で読書の大切さを語っていただきます。子どもたちに大人気の作家さんです。ご期待ください。

三つこね

いよいよ御柱祭も間近になってきた。御柱にまつわる行事のたびに木遣りや長持唄が披露されると、七年前のことが思い出される。

当時、小学校六年生だった娘は、三十人余りの地域の子どもたちと共に間近に迫った御柱に向け、長持ち、木遣り、踊りの練習に励んでいた。そして子どもだけでなく、親たちもまた忙しい日々が続いた。竹や鈴を調達しておんべを作り、その手作りのおんべで子どもたちと一緒に踊りを覚えた。

夜の滝に向きいくたびも木遣歌

子どもたちは毎晩七時頃になると、公民館に集まっては木遣りに励んだ。公民館の近くには、不動滝という小振りな滝が流れていた。

暗闇の中に水の音だけが響く、その滝に向かって、何回も何回も声が枯れそうになるまで大きな声で練習を重ねた。

当時に比べ、今では地域の子どもたちも三分の一にまで減ってしまったが、できることは継承して次代に繋げていってほしいと思う。

(篠遠良子)

